

6 賑わいを生むさまざまな仕掛けづくり

6-1 今後の方向性

都心・ウォーターフロントでの賑わいの創出のためには、空間づくりに加えて、魅力あるイベントなどを継続的に開催することが重要である。市民・大学等・事業者・行政が協創によるさまざまな取り組みを展開するとともに、国内はもちろんのこと東アジアをはじめとする世界各国にむけて、広くまちの情報を発信していくことなどが求められる。これらの仕掛けづくりを通じて、まちに対する市民の愛着を育て、来街者の再訪性を高めていく。

仕掛けづくりの取り組みとして、

- ①さまざま主体によるイベントの展開
- ②まちに彩りを添えるさまざまな小道具による演出
- ③クルーズ船誘致や海上観光交通の拡充
- ④わかりやすい情報発信（PR）の充実

を重点において進めていく。

6-2 仕掛けづくりの進め方

（1）さまざまな主体によるイベントの展開

都心・ウォーターフロントでの賑わいづくりのために、各種イベントを拡充し継続的に実施していくことは不可欠である。現在も市民・大学等・事業者・行政などによる多種多様なイベントが行われているが、今後とも神戸のブランド力を高める神戸固有のイベントを数多く展開していく。

特に、ウォーターフロントでのオープンスペースや（仮称）デザイン・クリエイティブセンターKOBÉ、神戸税関などの諸施設を活用した誰もが参加できるイベントを通じて、ウォーターフロントに対する愛着や期待感を高める。長期的に継続する恒例のイベントによって、まちの認知度や再訪性の向上を図る。

都心・ウォーターフロントでのイベントを、そのつながりのイメージを向上させるべく、相互に連携し、より魅力あるものとなるよう以下のような取り組み方針で拡充していく。

【今後の取り組み方針】

- ・ イベントの開催時期の拡充（特にウォーターフロントにおける冬季のイベント）
- ・ イベントの開催場所の拡充（中央ゾーンや東ゾーン、フラワーロード以東の都心）
- ・ イベント情報の共有、相乗効果が期待できる実施主体間の連携
- ・ 神戸オリジナルのイベントの長期間にわたる育成（ブランドづくり）



みなとこうべ海上花火大会



巡視船艇一般公開



神戸港カッターレース



神戸帆船フェスタ



こうべ海の盆踊り



南京町・ランタンフェア



神戸ビエンナーレ



神戸まつり

(2) まちに彩りを添えるさまざまな小道具による演出

ストリートファニチャーやフラッグ、建築物のライトアップなど、まちに散りばめられたさまざまな演出は、相応しいものを有効に配置することにより、まちの雰囲気醸し出し、まちに彩りを添えるものとなる。これら小道具による演出は、まちの個性やセンスを高める上で重要な要素であり、アイデアをいかしながら取り組みを進めていく。

【今後の取り組み方針】

光や音、匂いなど人間の五感に訴える演出など、さまざまなアイデアについて試行的な取り組みも含めて実施していく。

- ・まちなみ景観や眺望を楽しむ視点場や撮影ポイントなどの整備
- ・通りに歴史性や物語性などのテーマを設定し、テーマに応じたオブジェやロゴマークなどの設置
- ・オープンカフェやマルシェなど公共空間の一層の活用
- ・風を視覚化するフラッグ、モニュメントなどの設置
- ・市民、来街者が作製した記念品や思い出となるものを用いたモニュメントなどの設置



オープンカフェ



せせらぎ



建築物のライトアップ



フラッグ

(3) クルーズ船誘致や海上観光交通等の拡充

①クルーズ船誘致

海のリゾートホテルであるクルーズ船が多数行き来する港の風景は、港をいかし、港まちを印象づける上でも重要な要素である。現在、神戸港の入港客船数は年間で約 100 隻程度であり、今後はスローライフを求めてクルーズ観光需要の伸びが期待されている。

神戸港をアジア・瀬戸内クルーズの母港として機能強化を図り、国内外に神戸の魅力をアピールする。

【今後の取り組み方針】

- ・ 国内外のクルーズ船の誘致活動、特にアジアの主要なクルーズポートとの連携交流などアジアクルーズの誘致促進（神戸空港も活用したフライ&クルーズによる観光事業の推進など）
- ・ 入出港客船に対する歓送迎セレモニーの開催などホスピタリティ（おもてなし）の向上
- ・ 停泊時間の延長化
- ・ クルーズ船の入出港予定などについて、ICT等によるわかりやすく、入手しやすい情報の発信
- ・ 客船の大型化などに対応するため、ポートターミナルなどターミナル機能の強化
- ・ 外国クルーズ船入港時の手続きの迅速化・円滑化にむけた国との連携



クルーズ客船（ポートターミナル）



クルーズ客船（中突堤）

②海上観光交通等の拡充

神戸港周遊船等の海上での観光交通は、クルーズ船同様、港町神戸を印象づける重要な要素であり、都心・ウォーターフロントの魅力を高めることに貢献している。その運行自体が観光資源となるような交通機関（神戸港遊覧船や水陸両用車等）のさらなる拡充を図る。あわせてヨットなどのビジターバースの整備や帆船の誘致を推進する。



遊覧船



水陸両用車

(4) わかりやすい情報発信 (PR) の充実

都心・ウォーターフロントへ訪れるために知りたい情報（観光・宿泊・飲食・ショッピング・生涯学習・文化的行事・イベント・アクセス等）や神戸港の役割・歴史等港に関する情報など、さまざまな情報を、年齢・国籍等を問わず多くの人に、容易な手段でわかりやすく伝えることが、ホスピタリティの意味でも、賑わいを創出する意味でも重要である。市民・大学等・事業者・行政が協力しながら、常に情報の鮮度の維持に留意して、継続して取り組むことが必要である。

現在の情報発信の手段としては、①インターネットなどICTの活用、②鉄道駅など交通結節点での総合案内所、③広報誌・旅行ガイドなど雑誌類、④ICTを活用した案内サインやマップ、⑤口コミ、⑥展示など、種々のものがあり、それぞれ有効に活用することが求められる。

特に、携帯電話や端末機器のモバイル化の発展にあわせ、多国籍言語・GPS機能や検索ツールなどを取り入れながら、市民・事業者・大学等・行政が連携して各種情報のコンテンツの充実を図っていく。さらに、来街者へのアンケートなど双方向のやり取りを行い、情報発信の質的向上に努める。

【今後の取り組み方針】

市内だけでなく、市外、国外にむけて、誰もが簡単でわかりやすいユニバーサルデザインの視点から情報発信を行う。

- ・ イベントの事業主体間など情報提供側の情報共有、相乗効果が期待できる連携
- ・ 情報発信手段の充実（インターネット等ICTの最大限の活用、陸海での交通結節点での情報提供、デザインなど統一感のある案内サインの整備、等）
- ・ 発信する情報の内容の充実（多言語化の拡充、各種イベントやクルーズ船情報等ウォーターフロントならではの情報の充実等）